

教師の役割



子どもの主体的な学びの
サポーター

子どもの学びを支える **伴走者**

～主体的・対話的で深い学びの授業改善～

子どもの協働的な学びの
ファシリテーター



教育データ連携基盤

ダッシュボード

- ▶子どもの学習面や生活・健康面の状態を一元的に可視化
- ▶気になる児童生徒にアラートを発出

分析システム

- ▶子どもの「学力の変化」や「心の状態の変化」など、蓄積したデータをもとに**変化の要因や傾向を分析**


すべての先生がデータを活用した **伴走** が可能に

学習状況など、様々なデータの可視化による、早い段階からの適切な指導や支援

分析による客観的根拠に基づく効果的な指導や支援による、子どもの力を最大限に引き出すファシリテート

「教育データ活用」で解決したいこと


先生方の
経験や感覚



+

教育データ

- ▶ 可視化
- ▶ 分析



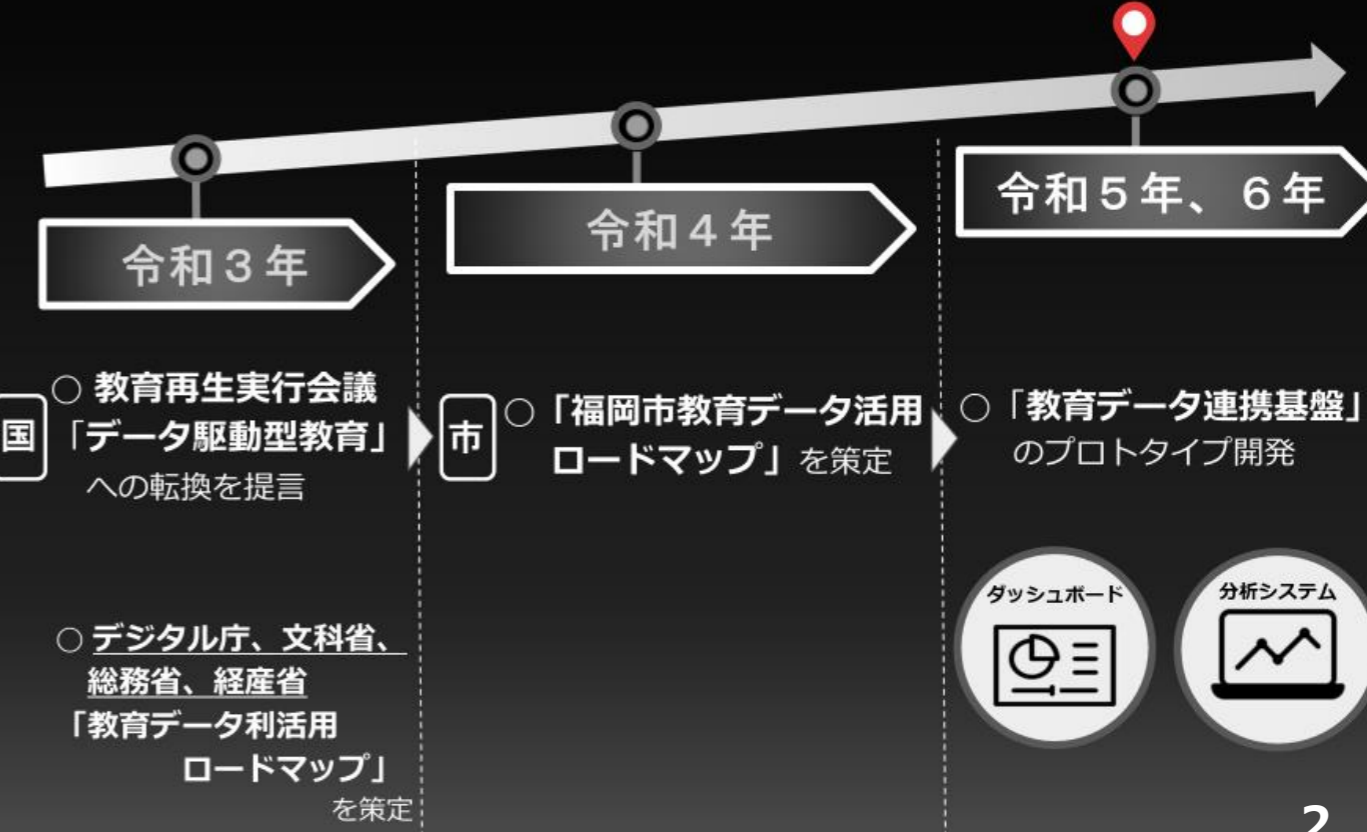
→

- ◆ 経験が豊かな先生の客観的根拠に基づく**指導効果の裏付け**
- ◆ 経験が少ない先生の指導や支援の**道しるべや判断材料**
- ◆ すべての先生方の**働き方の改善**

「学力の変化」や「心の状態の変化」を早期発見！

1

これまでの国と福岡市の動き



国


- 教育再生実行会議「データ駆動型教育」への転換を提言
- デジタル庁、文科省、総務省、経産省「教育データ利活用ロードマップ」を策定


市

- 「福岡市教育データ活用ロードマップ」を策定

令和5年、6年


- 「教育データ連携基盤」のプロトタイプ開発

ダッシュボード



分析システム


2


教育データ連携基盤とは



ダッシュボード



分析システム



必要なデータを抽出

データ貯蔵庫

- テストの点数等
- 出欠席等
- 指導記録等

3

集める主な教育データ

データ貯蔵庫

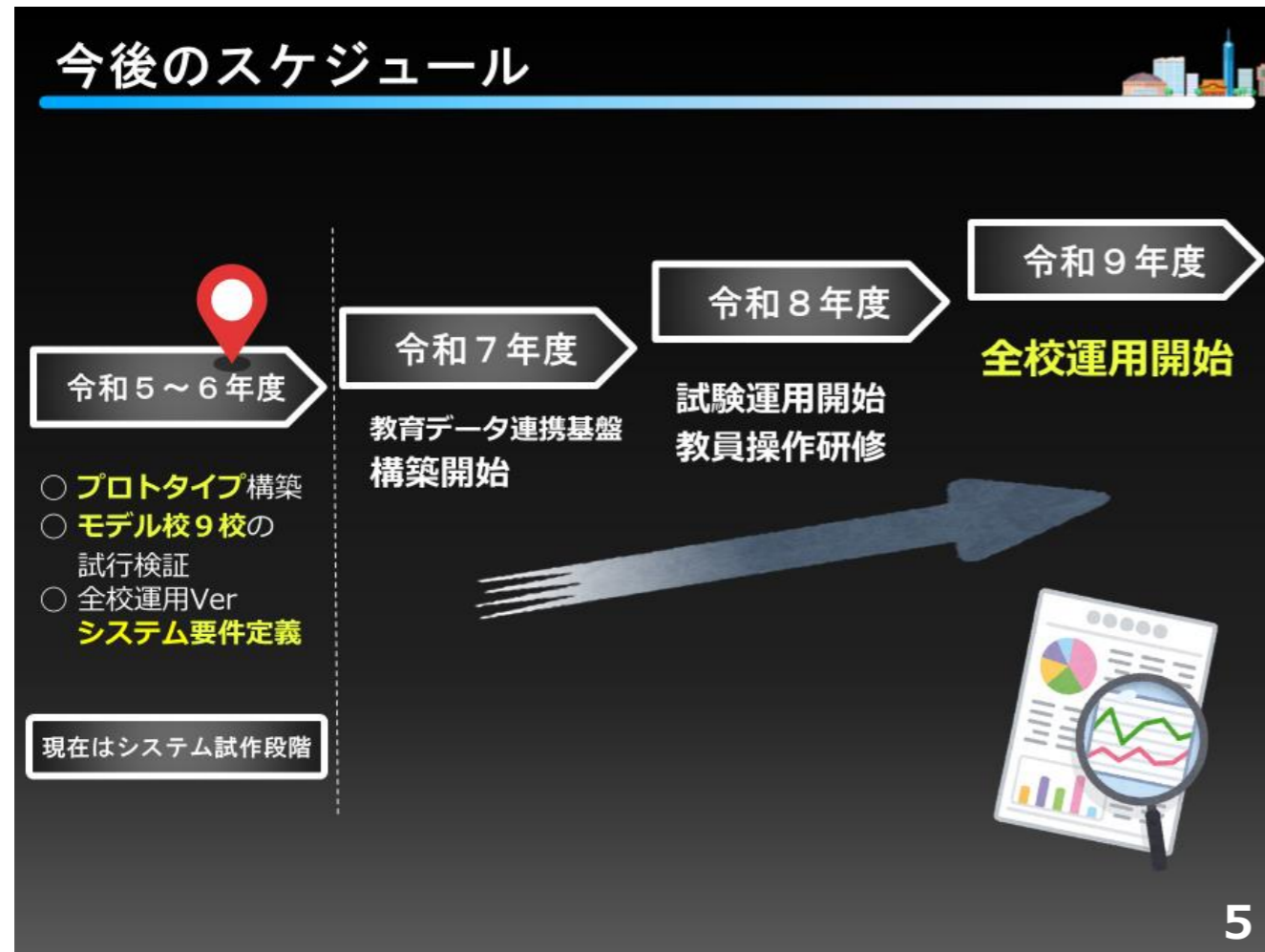
スタディ・ログ
(学習)

ライフ・ログ
(生活・健康)

アシスト・ログ
(指導・支援)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期テスト等 ・ ドリルの進捗や正答率 ・ 授業理解度 ⋮ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出欠席 ・ 遅刻の日数 ・ 心の健康観察 ・ 保健室来室記録 ⋮ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ こどもの悩み相談の指導や支援記録 ・ 家庭訪問の記録(訪問回数等) ⋮
--	--	---

4



福岡市 教育DX

教育データ活用を推進し、
きめ細かな指導や支援を充実してまいります

6

参考

ダッシュボード

日々の子どもの状態を可視化

ダッシュボードの役割

- 複数データを一画面に
- 必要な情報を探さず一目で確認

可能になること

- アラート機能でプッシュ型支援
- 指導やアドバイスにデータを活用
- 複数の教員で児童生徒を見守る

出欠情報

本日欠席が多いクラス 2024

クラス	欠席者割合	欠席数
2年2組	28.0%	7
2年3組	16.0%	4

欠席・遅刻・早退が目立つ児童

学年	学級	番号	氏名	欠席
1年	1組	24	東 次郎	0

心の健康観察

心の健康観察アラート 2024

クラス	番号	氏名	2日前
2年2組	7	天神 花子	🔴🔴
3年1組	16	博多 太郎	🟡🔴

保健室をよく利用している児童生徒

学年	学級	番号	氏名
6年	1組	20	福岡 三郎

アラート機能

今週のピックアップ 5

- 🔴 天神花子 **生活**
心の健康観察でアラートが続いています
- 🔴 西六子 **学習**
算数の理解度が低下しています
- 🔴 南四郎 **学習**
理科の理解度が低下しています

※児童生徒等は、架空のデータです

分析システム

複数のデータをもとに、相関の状態を可視化

分析システムの役割

- 複数のデータの相関関係やAIを活用して分析

可能になること

- 子どもの学力の変化や心の状態の変化の関連性の発見
- 教育の質の向上につながる効果的な教育施策の立案

データの選択

- 主体的に取り組む...
- 対話的に取り組む...
- 人間性
- 自己効力感
- 自己受容感

データは50項目以上から
選択可能

相関係数 0.80

「対話的に取り組む態度」

「主体的に取り組む態度」

相関のある結果をもとに効果的な指導や教育施策の立案に活用

計画の枠組み

【位置づけ】 地方公共団体における教育の振興のための施策に関する基本的な計画
【計画の期間】 令和7年度～令和11年度の5年間（令和7年6月成案予定）

策定スケジュール

令和7年2月
委員会報告
(原案)

令和7年3月
パブリック
コメント実施

令和7年6月
議会報告
(成案)

目指す人間像（こんな人になってほしい）

「自分の可能性を信じ、様々な変化や困難に主体的に向き合い、他者と力を合わせ、豊かな人生やよりよい社会を切り拓く人」

身に付けてほしい力

○自ら学ぶ力

- ・課題や問題を発見し、解決の見通しを持っている
- ・学ぶ環境（人・空間・時間）を選択・決定し、進んで追究している
- ・学んだことを振り返り、新たな学びへの意欲を持っている

○他者と協働する力

- ・地域社会の一員としての自覚を持ち、多様な人と関わっている
- ・自分を知るとともに、異なる他者を知り、尊重している
- ・異なる意見がある中で合意形成を図り、納得解を得ることができる

○未来をつくる力

- ・様々な学びや経験を通して、なりたい自分を思い描いている
- ・身の回りや社会における変化や困難を自分事として前向きに受け止めている
- ・失敗を恐れずに新しいことに挑戦している

基本方針

(1) 子どもを主体とした学びの推進

受動的な学びから、能動的な学びへの転換。
教員は学びを支える伴走者として、必要な人や空間・時間などを調整

(2) 多様な教育ニーズへの対応

特別な支援を必要とする児童生徒や不登校児童生徒など、多様なニーズを有する児童生徒の個々の状況に応じた支援

(3) 教員の資質・意欲の向上

教員が心身ともに充実し、自己を高めながら、生き生きと子どもたちと接することができるよう、優れた人材の採用や資質・能力の向上、学校における働き方改革を推進

(4) 安全・安心な教育環境の整備

安全・安心を確保しつつ、新しい時代の学びを実現する場となるよう、教育環境の向上を推進

(5) 地域連携・家庭教育の推進

家庭や地域との連携・協働や地域の多様な人材の活用による学校教育活動の充実、地域や家庭における教育の支援

施策

- 1 確かな学力の育成
- 2 豊かな心の育成
- 3 健やかな体の育成

- 4 多様な教育ニーズへの対応と社会的包摂

- 5 教職員の確保及び資質・能力の向上
- 6 教員が子どもと向き合い、チームとして対応できる環境づくり

- 7 安全・安心に学ぶことができる環境の整備

- 8 学校と家庭・地域等の連携強化及び家庭・地域等における教育の推進

計画推進にあたっての共通の視点

(1) Well-being（ウェルビーイング）

子どもの権利が尊重され、子どものウェルビーイングを向上させるという視点を常に意識。教員のウェルビーイングを確保することも必要

(2) DX（デジタルトランスフォーメーション）

教育の質の向上や困難を抱える子どもの支援、教員の負担軽減など様々な場面においてデジタル化でより良い効果や新しい価値を見出すことができるかを意識

現状

こどもの状態	支 援 策
登 校	未然防止 早期対応 Q-Uアンケート ※全学年で年1回実施 ----- 教員による全員面談の実施
不登校気味	別室（保健室など）登校 教育支援員の配置（令和6年度～）
不登校だが 在籍校に行ける	学校内の居場所 ----- 校内教育支援教室 ※全中学校に設置
不登校で 在籍校に 行けない (外出は可能)	在籍校以外への復帰 ----- 学校以外の居場所 教育支援センター ※令和6年度から全区に設置を拡大
ひきこもり	ひきこもり支援 メンタルフレンド (大学生相談員)の派遣 ----- オンラインルーム開設

共通した支援

- ・教育相談コーディネーター、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーによる連携した支援
- ・ICTを活用した支援（オンライン相談など）
- ・動画型デジタル教材による学習（教育支援センター、自宅など）

新たな支援

令和7年4月 学びの多様化学校
「福岡市立百道松原中学校」を開校

目指す学校像

人とのつながりの中で自分の可能性に気づき、
新たな一歩を踏み出すことができる学校

チャレンジしやすい
学校生活

- 授業時数の低減により、朝や放課後のゆとりを創出
- 教室以外にもリラックスできる空間を確保
- 相談しやすい環境を整え、きめ細かにサポート

多様に取り組む
「学び」の充実

- 一人一人の学習状況に応じた学びをサポート
- 「好き」を深めることのできる教科を新設
- 職場体験など様々な体験活動を実施

人や社会とつながる
教育課程

- ソーシャルスキルを身に付ける活動を実施
- ストレスマネジメント力を高める時間を設定
- キャリア教育を実施

施設概要

- ・福岡市教育センター内（早良区百道）に設置
- ・職員室や各教室に加え、多目的室、図書室、相談室などを整備



対象者

- ・福岡市内に住民登録をしている、不登校または不登校傾向がある中学生

授業時数・時制

- ・年間770時間程度
(参考) 標準授業時数：1,015時間
- ・1時限あたり45分授業。
始業時と終業時には、生徒同士でコミュニケーションを取ったり、1日の予定の確認や振り返りなどを行う時間を設定。

9:30 ~ 10:10	朝の会(ウォーミングアップ)
10:15 ~ 11:00	1時限
11:10 ~ 11:55	2時限
11:55 ~ 13:15	給食・昼休み・清掃
13:20 ~ 14:05	3時限
14:15 ~ 15:00	4時限
15:00 ~ 15:25	帰りの会(リラックスタイム)

開校までのスケジュール

